

真生保育園 平成28年度事業報告

園長 森田 真由美

28年度は園長の交代があり、職員、保護者への影響が心配され、また園長としての仕事に不慣れな部分がありましたが、保護者の理解と職員の協力により無事に終えることが出来ました。

< 育児・遊び >

9月に数名でやまぼうし保育園に研修に行かせて頂き、初めて行った職員は沢山の刺激を受け帰ってきました。他の職員に周知することで皆の意識も高まり、すぐに園で行えることは実行したりと意欲的に実践に移すことが出来ました。

保育では遊びはもちろんの中、丁寧な育児を心掛けました。特に子どもへの言葉がけの部分では何度も会議の議題とし、肯定的な言葉がけを心掛けながら保育を行いました。遊びでは子供の姿から、何が必要か何を求めているのかをよく理解し、子どもの発達や成長に合わせた玩具や環境を整えました。

幼児クラスではカリキュラムを見直し、それを確実に実行することができました。

本年度は絵本の貸し出しにも力をいれ、絵本の貸し出し数が大きく増えました。

子供だけでなく保護者にも絵本の大切さが浸透していることが感じられ、一つひとつ直実に形にしていくことが出来た一年であったように感じています。

< その他 >

- ・行事は無事に終えることが出来ましたが、方向性の部分で、これからどのように進めていくのか3園の方向性を積極的に話し合っていきたいと感じています。
- ・10月のノロウイルスの流行により保健所が入り指導を受けました。日頃の衛生面には十分に気を付けていましたが、このような事態になり再度衛生面の見直しを行い、同じ事態が起らないように気を付けていきたいと思えます。
- ・園児の中に、医療的ケアが必要なお子さん（糖尿病）がおり、看護師をフリーにすることで適切、的確なケアが行え、お子さんの安全を守れるよう保育しました。その他にもアレルギーや成長発達が気になるお子さんも多く、難しい部分もありますが、出来る範囲の中で丁寧に安全に保育を行っていけるよう保育士全員で意識し話合いの場を多く持つことが出来ました。今後も安全面には十分に配慮します。また保護者へのケアも必要な中なので、日頃からのコミュニケーションを大切にし保護者との良好な関係を築けるよう心がけました。今後も適切な距離で信頼を得られるようしっかりとした保育をしていきたいと思えます。次年度も職員が同じ意識、同じ目標を持ち、より良い保育をしていきたいと思えます。